Hidden Christian Sites in the Nagasaki Region 5th ANNIVERSARY

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産

世界文化遺産登録5周年記念

# 新収蔵品展

令和5年度

天草コレジヨ館企画展

天草コレジヨ館

# ごあいさつ

天草コレジヨ館は、戦国時代から安土桃山時代にかけて、天草にもたらされた南蛮文化とキリシタン史を広く知っていただくための資料館として、平成2年（1990）5月12日に河浦町に開館いたしました。現在、天草市立キリシタン資料館の一館として、この地にキリスト教を伝えたルイス＝デ＝アルメイダ神父と彼に協力した領主の天草氏、また1591～1597年に天草で機能した宣教師養成学校「天草コレジヨ」などの歴史に関する展示、資料の収集・管理を行っています。

本企画展は、この数年で当館にご寄贈いただいた貴重な資料のうち、初公開となる資料を中心に展示を行うもので、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録5周年記念事業の一環として企画いたしました。

今回の企画展では、誰もが一度は見覚えがあるザビエル肖像画（神戸市立博物館）の直接的モデルとなったフランシスコ＝ザビエル肖像銅版画や、1597年に長崎で磔刑に処された日本二十六聖人のうち、天草コレジヨで学んだ人物である聖パウロ三木に関する銅版画、また天草コレジヨで1592年に印刷されたキリシタン版『ドチリーナ・キリシタン』（東洋文庫蔵・国指定重要文化財）が、かつてスペインの古書店で売りに出されていた時のカタログなど、天草キリシタン史を捉える上で、非常に貴重な資料をご鑑賞いただくことができます。実物の資料をぜひゆっくりとご覧いただき、遠く離れた西洋からの文物を積極的に受け入れながら培われた天草の「進取の気風」に想いを馳せていただければ幸いです。

最後になりますが、本企画展の開催にあたって、貴重な資料を数多くご寄贈くださいました青羽古書店の羽田 孝之様と松浦 功様に心から感謝を申し上げます。

令和5年4月28日

天草市立キリシタン資料館　館長　平田 豊弘

凡　例

・本パンフレットは、天草市立キリシタン資料館　天草コレジヨ館において、令和5年（2023）4月28日（金）～8月30日（水）まで開催する天草コレジヨ館企画展「新収蔵品展」の資料紹介パンフレットである。
・当該企画展は、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産　世界文化遺産登録5周年記念事業の一環として実施する。
・本パンフレット中の作品番号と実際の展示順はかならずしも整合しない。
・本パンフレットに掲載した資料はすべて天草コレジヨ所蔵である。
・本パンフレットの執筆・編集・写真撮影等は中山 圭が担当した。

№ 1

## フランシスコ・ザビエルの生涯

オラツィオ＝トルセリーニ

（挿図 ザビエル肖像銅版画/
ヒロニムス＝ヴィリクス）
1607年/仏・リヨン刊
全2巻 フランス語/1巻：皮革装丁 2巻：ヴェラム装丁
1巻：縦16.6cm×奥行11.4cm
2巻：縦16.5cm×奥行11.4cm
肖像：縦8.4cm×横6.1cm

16世紀代に刊行されたフランシスコ＝ザビエルの伝記としてもっとも完成度が高いものが、トルセリーニによる本伝記であり、その完成度の高さから様々な言語に翻訳（ほんやく）され出版された。本書はフランス語版で1607年にリヨンで刊行されたもの。

見返しに挿入（そうにゅう）されるザビエルの肖像版画はH＝ヴィリクスによるもので、両手を胸前で交差しやや斜め上に視線を送る構図である。国内で著名な、神戸市立博物館蔵のザビエル像の直接のモデルとなった一枚として大変貴重な銅版画である。

レプリカ

№ 2

## 日本諸島実記（にほんしょとうじつき）

レンヴァルト＝ツィザート

1586年/スイス・フライブルク刊
ドイツ語/紙装丁
書：縦15.3cm×奥行10.2cm
地図：縦29.5cm×横42.3cm

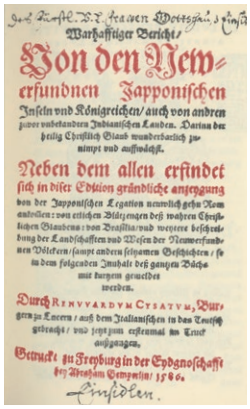
天正遣欧使節（てんしょうけんおうしせつ）フィーバーが冷めやらぬ中、スイス人地方官ツィザートがドイツ語圏（けん）で初めて日本について詳述（しょうじゅつ）した書。ツィザート自身は、日本を訪れたことはなく、イエズス会士の書簡等から得られた日本情報を元に執筆（しっぴつ）されている。

注目されるのは折り込みの日本地図で、よく知られるオルテリウスによる日本図に先行し、詳細に日本の諸都市を描いたものとして最古の部類である。九州の様子を見ると「Amacusa」（天草）は島として描写される一方、「Xiqui」（志岐（しき））は大陸の沿岸部に配置されており、当時、天草（河内浦（かわちうら））と志岐を別の島と認識していた宣教師の意識が反映されていることがわかる。

中央下部のフレームには「Domus Societaris Iesv in Iapponia」（日本におけるイエズス会の家）として、府内・長崎・大村・天草・都（京都（みやこ））など当時の主要な教区が記載されている。

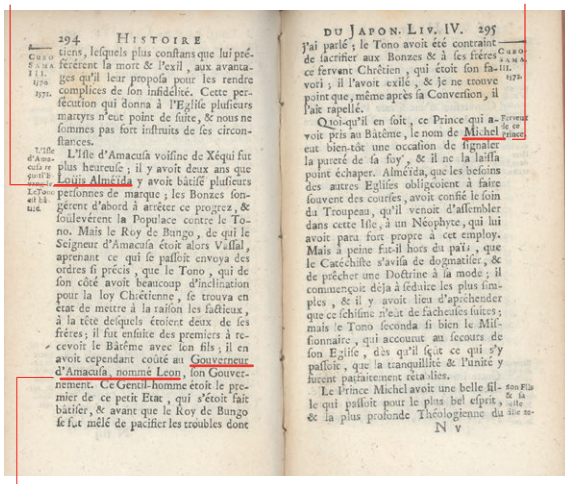
⇓

天草周辺部の拡大




中表紙

vol.1　vol.3
背表紙



294 HISTOIRE

tiens, lesquels plus constans que lui préférerent la mort & l'exil, aux avantages qu'il leur proposa pour les rendre complices de son infidélité. Cette persécution qui donna à l'Eglise plusieurs martyrs n'eut point de suite, & nous ne sommes pas fort instruits de ses circonstances.

L'Isle d'Amacusa voisine de Xéqui fut plus heureuse ; il y avoit deux ans que Loüis Alméida y avoit bâtisé plusieurs personnes de marque ; les Bonzes songerent d'abord à arrêter ce progrez, & soulevérent la Populace contre le Tono. Mais le Roy de Bungo, de qui le Seigneur d'Amacusa étoit alors Vassal, aprenant ce qui se passoit envoya des ordres si précis, que le Tono, qui de son côté avoit beaucoup d'inclination pour la loy Chrétienne, se trouva en état de mettre à la raison les factieux, à la tête desquels étoient deux de ses frères ; il fut ensuite des premiers à recevoir le Bâtême avec son fils ; il en avoit cependant coûté au Gouverneur d'Amacusa, nommé Leon, son Gouvernement. Ce Gentil-homme étoit le premier de ce petit Etat, qui s'étoit fait bâtiser, & avant que le Roy de Bungo se fut mêlé de pacifier les troubles dont

DU JAPON. LIV. IV. 295

j'ai parlé ; le Tono avoit été contraint de sacrifier aux Bonzes & à ses frères ce fervent Chrétien, qui étoit son favori ; il l'avoit exilé, & je ne trouve point que, même après sa Conversion, il l'ait rapellé.

Quoi-qu'il en soit, ce Prince qui avoit pris au Bâtême, le nom de Michel eut bien-tôt une occasion de signaler la pureté de sa foy, & il ne la laissa point échaper. Alméida, que les besoins des autres Eglises obligeoient à faire souvent des courses, avoit confié le soin du Troupeau, qu'il venoit d'assembler dans cette Isle, à un Néophyte, qui lui avoit paru fort propre à cet employ. Mais à peine fut-il hors du païs, que le Catéchiste s'avisa de dogmatiser, & de prêcher une Doctrine à la mode ; il commençoit déja à séduire les plus simples, & il y avoit lieu d'apréhender que ce schisme n'eût de facheuses suites ; mais le Tono seconda si bien le Missionnaire, qui accourut au secours de son Eglise, dès qu'il sçut ce qui s'y passoit, que la tranquillité & l'unité y furent paitaitement rétablies.

Le Prince Michel avoit une belle fille qui passoit pour le plus bel esprit, & la plus profonde Théologienne du siec-

N v

ルイス＝アルメイダ
ミゲル天草鎮尚
天草の執政官レオン（リアン）

## № 3
# 日本におけるキリスト教の興隆と発展、凋落の歴史

ピエール＝シャルルボア
1715年/仏・ルーアン刊
全3巻　フランス語/皮革装丁
1巻＝縦17.0cm×奥行10.0cm
2巻＝縦17.0cm×奥行10.0cm
3巻＝縦16.9cm×奥行10.6cm

フランスのイエズス会士であるシャルルボアが執筆した日本のカトリック史。全3巻で構成されており、本館所蔵資料は、vol.3のみ装丁が異なっている。

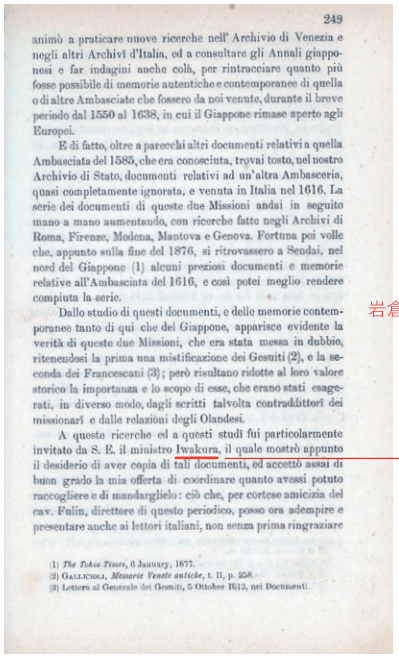
展示ページは、vol.1の内容で、ドン・ミゲル（Michel）天草鎮尚とルイス＝デ＝アルメイダの出会いについて記述している。

## № 4
# 古の時代のイタリアにおける日本使節：歴史的覚書と関連史料

グリエルモ＝ベルシェー
（『ヴェネット・アーカイブ』第13号所収）
1877年/伊・ヴェネツィア刊
イタリア語/皮革装丁ヵ
縦23.6cm×奥行16.7cm

1873年5月、岩倉具視を団長とするヨーロッパ視察団がイタリアのヴェネツィアを訪問した折、フラーリ古文書館で遣欧使節の書簡（※この書簡は支倉常長のもの）を現地で確認している。ベルシェーはこの時、岩倉よりイタリア他都市での収蔵状況の調査を依頼されており、その成果のひとつがこの論文であり、研究誌『ヴェネット・アーカイブ』第13号に掲載されたものである。明治期の日本・西洋の再邂逅を示す資料である。

背表紙



249

animò a praticare nuove ricerche nell' Archivio di Venezia e negli altri Archivi d'Italia, ed a consultare gli Annali giapponesi e far indagini anche colà, per rintracciare quanto più fosse possibile di memorie autentiche e contemporanee di quella o di altre Ambasciate che fossero da noi venute, durante il breve periodo dal 1550 al 1638, in cui il Giappone rimase aperto agli Europei.

E di fatto, oltre a parecchi altri documenti relativi a quella Ambasciata del 1585, che era conosciuta, trovai tosto, nel nostro Archivio di Stato, documenti relativi ad un'altra Ambasceria, quasi completamente ignorata, e venuta in Italia nel 1616. La serie dei documenti di queste due Missioni andai in seguito mano a mano aumentando, con ricerche fatte negli Archivi di Roma, Firenze, Modena, Mantova e Genova. Fortuna poi volle che, appunto sulla fine del 1876, si ritrovassero a Sendai, nel nord del Giappone (1) alcuni preziosi documenti e memorie relative all'Ambasciata del 1616, e così potei meglio rendere compiuta la serie.

Dallo studio di questi documenti, e delle memorie contemporanee tanto di qui che del Giappone, apparisce evidente la verità di queste due Missioni, che era stata messa in dubbio, ritenendosi la prima una mistificazione dei Gesuiti (2), e la seconda dei Francescani (3); però risultano ridotte al loro valore storico la importanza e lo scopo di esse, che erano stati esagerati, in diverso modo, dagli scritti talvolta contradditori dei missionari e dalle relazioni degli Olandesi.

A queste ricerche ed a questi studi fui particolarmente invitato da S. E. il ministro Iwakura, il quale mostrò appunto il desiderio di aver copia di tali documenti, ed accettò assai di buon grado la mia offerta di coordinare quanto avessi potuto raccogliere e di mandarglielo: ciò che, per cortese amicizia del cav. Fulin, direttore di questo periodico, posso ora adempire e presentare anche ai lettori italiani, non senza prima ringraziare

(1) *The Tokio Times*, 6 January, 1877.
(2) GALLICIOLI, *Memorie Venete antiche*, t. II, p. 258.
(3) Lettera al Generale dei Gesuiti, 5 Ottobre 1613, nei Documenti.

岩倉具視

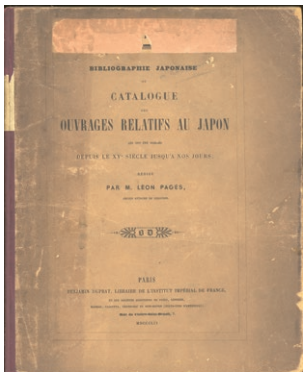
表面

裏面

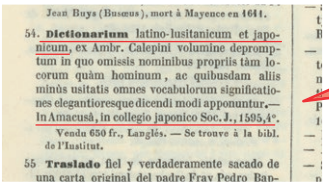
## № 5
# 天正遣欧使節とグレゴリウス13世謁見記念メダル

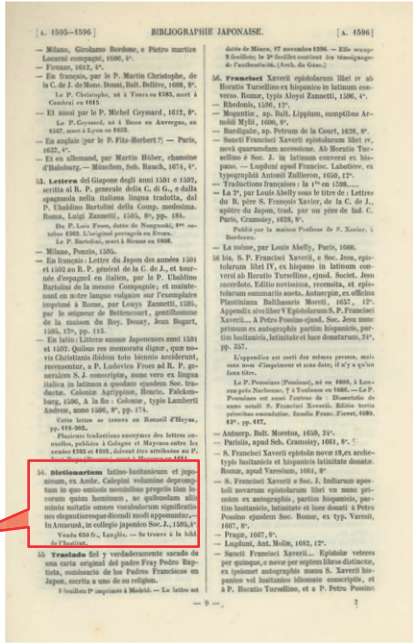
ロレンツォ＝フラーニ
1585年ヵ/伊・ローマ製
銅製
径3.7cm

伊東マンショら天正遣欧使節と教皇グレゴリオ13世の謁見を記念して製作されたメダル。表面にはグレゴリオ13世の横向きの胸像と「GREGORIVS XIII PONT OPT MAXIMVS」（教皇グレゴリオ13世の意。PONTはPontifex、OPTはOptimusの略）の文字。裏面には「AB REGIBVS IAPONIOR PRIMA AD ROMA PONT LEGATIO ET OBEDIENTIA 1585」（日本の国々から教皇がいらっしゃるローマへ初の使節団と恭順1585年）という趣意文がレリーフされている。なお、コレジヨ館常設展ではシクスト5世の同タイプメダルも展示しているので、ぜひ見比べていただきたい。




表紙




羅葡日辞書の記述

№ 6

## 日本関係文献目録

レオン＝パジェス
1859年/仏・パリ刊
フランス語/ボール紙装丁
縦21.2cm×奥行26.0cm

フランス人外交官パジェスが編纂した日本関係の文献目録で、ヨーロッパにおける日本書誌学研究の先駆的な業績とされる。副題に「15世紀から今日に至るまでに刊行された日本に関連する作品の目録」とあるように、ヨーロッパ各地の図書館等で確認した日本関係の書籍が紹介されている。

このうち、天草コレジヨで印刷されたキリシタン版（天草本）は、『羅葡日対訳辞典』や『ひですの導師』（ルイス＝デ＝グラナダの「カテキズモ」）が紹介されておりパジェスが、1888年のアーネスト＝サトゥ著『1591年から1610年の日本におけるイエズス会出版物』（常設展示中）に先行してキリシタン版を把握していたことがうかがえる。

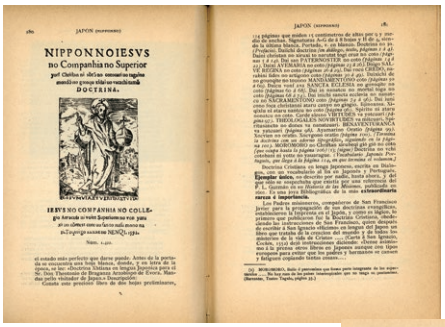
№ 7

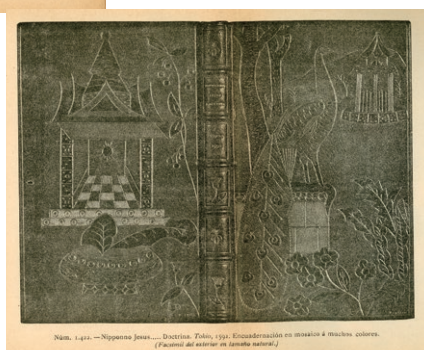
## 古書店ビンデルの『精選書籍目録』

ペドロ＝ビンデル
1913年/西・マドリッド刊
スペイン語/皮革装丁
縦23.3cm×奥行17.0cm

ビンデルは、スペイン・マドリッドのレラトレス街にあった古書店で、本資料は1913年の販売用カタログである。P179以降に、天草コレジヨで1592年に刊行された『ドチリーナ・キリシタン』が載っており、タイトルページのコピーや装丁の写真も紹介されている。この装丁写真は、現在東洋文庫が所蔵する国指定重要文化財の同書と一致するので、このカタログで売りに出た書が、後々東洋文庫に入ったものである。

天草を訪れた「五足の靴」のひとり、木下杢太郎もこのビンデルのカタログに注意を寄せている（『えすぱにや・ぽるつがる記』1929年）




折り込みドチリーナ・キリシタン装丁

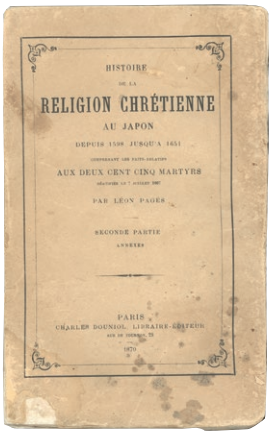
## COLUMN　東洋文庫のドチリーナ・キリシタン

1592年に、天草コレジヨで印刷されたキリスト教の教義書『ドチリーナ・キリシタン』。現存する書は、世界に唯１冊のみで、東京都の東洋文庫が所蔵し、国指定重要文化財に指定されています。

この書は、アーネスト＝サトゥが1888年に出版した『1591年から1610年の日本におけるイエズス会出版物』（当館展示中）に収載されておらず、1903年になって村上直次郎博士が、ポルトガル・リスボンのパッソス・マノエル中学校で発見されたものです（天理図書館編『きりしたん版の研究』）。この後、出展№7に見るように1913年にはスペインの古書店「ビンデル」に売りに出されますが、この時はあるアメリカ人が購入したといわれます。さらにその後、東洋文庫の収蔵品としてわが国に「里帰り」し、文化財として現代まで継承されていることは、素晴らしいことです。当時の関係者の血のにじむような努力がうかがわれます。

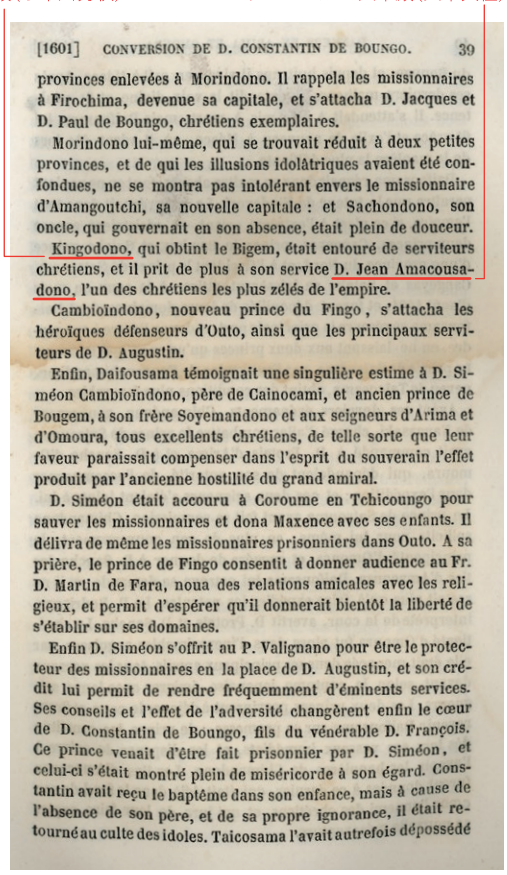
東洋文庫写真版の装丁とビンデル目録のモノクロ写真が一致していることは一目瞭然。430年前に天草で印刷された教義書は、世界をめぐる数奇の運命をたどり、今はこの日本で大切に扱われているのです。

東洋文庫蔵『ドチリーナ・キリシタン』の表紙装丁
（『東洋文庫善本叢書2　重要文化財 ドチリーナ・キリシタン 天草版』（2014年、勉誠出版）P6,7より引用




表紙

金吾殿（小早川秀秋）　ドン＝ジョアン天草殿（天草久種）



[1601] CONVERSION DE D. CONSTANTIN DE BOUNGO. 39

provinces enlevées à Morindono. Il rappela les missionnaires à Firochima, devenue sa capitale, et s'attacha D. Jacques et D. Paul de Boungo, chrétiens exemplaires.

Morindono lui-même, qui se trouvait réduit à deux petites provinces, et de qui les illusions idolâtriques avaient été confondues, ne se montra pas intolérant envers le missionnaire d'Amangoutchi, sa nouvelle capitale : et Sachondono, son oncle, qui gouvernait en son absence, était plein de douceur. Kingodono, qui obtint le Bigem, était entouré de serviteurs chrétiens, et il prit de plus à son service D. Jean Amacousadono, l'un des chrétiens les plus zélés de l'empire.

Cambioïndono, nouveau prince du Fingo, s'attacha les héroïques défenseurs d'Outo, ainsi que les principaux serviteurs de D. Augustin.

Enfin, Daifousama témoignait une singulière estime à D. Siméon Cambioïndono, père de Cainocami, et ancien prince de Bougem, à son frère Soyemandono et aux seigneurs d'Arima et d'Omoura, tous excellents chrétiens, de telle sorte que leur faveur paraissait compenser dans l'esprit du souverain l'effet produit par l'ancienne hostilité du grand amiral.

D. Siméon était accouru à Coroume en Tchicoungo pour sauver les missionnaires et dona Maxence avec ses enfants. Il délivra de même les missionnaires prisonniers dans Outo. A sa prière, le prince de Fingo consentit à donner audience au Fr. D. Martin de Fara, noua des relations amicales avec les religieux, et permit d'espérer qu'il donnerait bientôt la liberté de s'établir sur ses domaines.

Enfin D. Siméon s'offrit au P. Valignano pour être le protecteur des missionnaires en la place de D. Augustin, et son crédit lui permit de rendre fréquemment d'éminents services. Ses conseils et l'effet de l'adversité changèrent enfin le cœur de D. Constantin de Boungo, fils du vénérable D. François. Ce prince venait d'être fait prisonnier par D. Siméon, et celui-ci s'était montré plein de miséricorde à son égard. Constantin avait reçu le baptême dans son enfance, mais à cause de l'absence de son père, et de sa propre ignorance, il était retourné au culte des idoles. Taicosama l'avait autrefois dépossédé

№ 8

## 日本切支丹宗門史（1598年から1651年に至る日本におけるキリスト教史）

レオン＝パジェス

1869〜1870年/仏・パリ刊

全2巻　フランス語/簡易紙装丁

縦23.0cm×奥行14.0cm（2巻とも）

レオン＝パジェスが『日本関係文献目録』の後にまとめた日本におけるキリシタン史の大著である。17世紀前半のキリシタン通史であり、早くから吉田小五郎の翻訳が知られるため、邦題の『日本切支丹宗門史』で呼称される。1巻が原著となっており、1598年以降の「内府様の時代」から始まる。2巻は資料編となっている。

原著の1巻には、天草に関する記述も多数見られるが、P39には1601年に「備前を拝領した金吾殿（小早川秀秋）は、周囲の家臣が大部分キリシタンであったが、さらに、全国でも最も熱心な信者のひとりであるドン・ジョアン天草（久種）殿を召し抱えた」と記録しており、小西行長敗死後の天草久種（鎮尚の子で跡継ぎ）の行方を知ることができる。

№ 9

## 日本の皇帝、太閤様によって長崎において磔刑に処せられた23人の殉教者

ジャック＝カロ

1627〜1629年頃/出版地不明

フランス語/厚紙装丁

書：縦19.5cm×奥行28.5cm

版画：縦17.0cm×横11.5cm

17世紀前半に活躍した版画家カロによる画で、1597年に長崎で起きた殉教事件「二十六聖人の殉教」をテーマとしている。しかし、タイトルと実際の殉教者の数のとおり、23名しか描かれていない。これは、26名の殉教者からイエズス会士であった3名を意図的に除外したもので、描かれた23名はフランシスコ会士である。

17世紀、フランシスコ会とイエズス会の関係は険悪であったことから、二十六聖人の列福がなされた1627年以降の銅版画作品で両会士を区別して描写することは一般的であった。

№10

## パウロ三木・ヨハネ五島・ヤコブ喜斎肖像銅版画

作者・出版地不明
18～19世紀ヵ
縦38.2cm×横26.8cm

1597年に長崎で殉教したいわゆる「二十六聖人」のうち、№9と対照的に、イエズス会士の3名を描いた銅版画。作者等は不明である。四ヶ所に天使を配したメダイ形のフレームの中に、それぞれが磔刑に使用されたであろう十字架を抱く姿の3名が描写されている。

年齢から見て殉教時64歳であった喜斎が中央の人物であろう。33歳の壮年であった三木は左側の人物、19歳の青年であった五島が右の人物と考えられる。下部表題の各氏の名前には「S.」(Saint＝聖者)が冠されており、一見、二十六聖人が列聖された1862年以降の作品とも思えるが、作風はそれより古式で18世紀代の可能性がある。

COLUMN

## 天草で学んだ二十六聖人 パウロ三木

1597年、長崎の西坂で26名のキリスト教徒が十字架に縛られ処刑されました。この事件が「二十六聖人殉教事件」です。

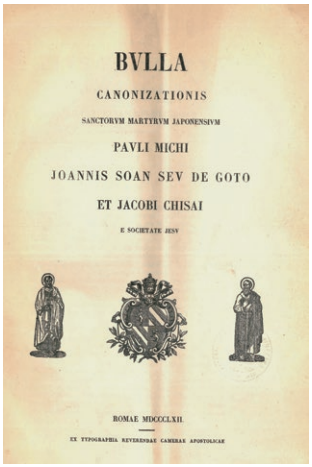
1596年、メキシコを目的地としてフィリピンを出航したスペイン船サン＝フェリペ号は台風に遭遇、高知県の浦戸に漂着しました。乗組員が「スペインはまず宣教師を派遣し信者を増やし、やがてその国を征服する」と発言したことで、豊臣秀吉の勘気にふれ、京都や大坂にいたフランシスコ会宣教師らが捕縛されました。彼らは長崎に護送され、翌年2月5日に一斉に処刑されたのです。17世紀に苛烈をきわめる日本の殉教端緒として、26名は1627年に福者、1862年に聖者に列せられています。

その中に、3名のイエズス会士も含まれていました。パウロ三木・ヨハネ五島・ヤコブ喜斎です。

パウロ三木は、摂津(大阪府・兵庫県)の生まれ(諸説あり)で、織田信長に仕えた三木半大夫の子息です。幼少期からオルガンティーノ神父に教えを受け、安土のセミナリヨで学び、パウロというキリシタンになりました。これらのことは、出展№11などに記載されています。

ところで、パウロはまた天草コレジヨでも学んだことが明らかです。1628年にイタリア・ザネッティ社から出版された『日本の殉教者パウロ三木らの栄光ある死に関する短報:ペドロ＝ゴメスによるイエズス会総長宛1597年書簡より』には、パウロが「studiato nel Collegi di Amacusa(天草コレジヨに学んだ)」と記されています(青羽古書店による同書解説より http://www.aobane.com/books/1341)。パウロは1592、1593年のコレジヨ学生名簿には見られず、1596年に大坂で捕縛されているため、天草コレジヨには短期間しかいなかったようです。しかし、この短報が天草コレジヨの教授であったペドロ＝ゴメスの1597年の書簡を典拠としていることから、その信憑性は高いものと思われます。天草で学んだパウロ三木は、今も西坂の丘から、西の海へまなざしを向けています。

長崎市西坂の二十六聖人パウロ三木像



BVLLA

CANONIZATIONIS

SANCTORVM MARTYRVM IAPONENSIVM

PAVLI MICHI

JOANNIS SOAN SEV DE GOTO

ET JACOBI CHISAI

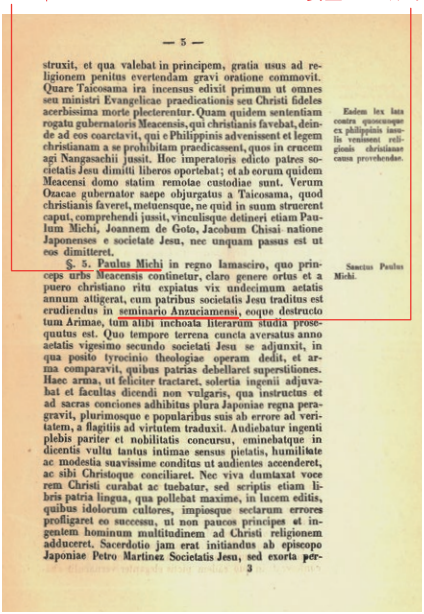
E SOCIETATE JESV

ROMAE MDCCCLXII

EX TYPOGRAPHIA REVERENDAE CAMERAE APOSTOLICAE

中表紙

パウロ三木　安土のセミナリオ



— 5 —

struxit, et qua valebat in principem, gratia usus ad religionem penitus evertendam gravi oratione commovit. Quare Taicosama ira incensus edixit primum ut omnes seu ministri Evangelicae praedicationis seu Christi fideles acerbissima morte plecterentur. Quam quidem sententiam rogatu gubernatoris Meacensis, qui christianis favebat, deinde ad eos coarctavit, qui e Philippinis advenissent et legem christianam a se prohibitam praedicassent, quos in crucem agi Nangasachii jussit. Hoc imperatoris edicto patres societatis Jesu dimitti liberos oportebat; et ab eorum quidem Meacensi domo statim remotae custodiae sunt. Verum Ozacae gubernator saepe objurgatus a Taicosama, quod christianis faveret, metuensque, ne quid in suum struerent caput, comprehendi jussit, vinculisque detineri etiam Paulum Michi, Joannem de Goto, Jacobum Chisai natione Japonenses e societate Jesu, nec unquam passus est ut eos dimitteret.

§. 5. Paulus Michi in regno Iamasciro, quo princeps urbs Meacensis continetur, claro genere ortus et a puero christiano ritu expiatus vix undecimum aetatis annum attigerat, cum patribus societatis Jesu traditus est erudiendus in seminario Anzuciamensi, eoque destructo tum Arimae, tum alibi inchoata literarum studia prosequutus est. Quo tempore terrena cuncta aversatus anno aetatis vigesimo secundo societati Jesu se adjunxit, in qua posito tyrocinio theologiae operam dedit, et arma comparavit, quibus patrias debellaret superstitiones. Haec arma, ut feliciter tractaret, solertia ingenii adjuvabat et facultas dicendi non vulgaris, qua instructus et ad sacras conciones adhibitus plura Japoniae regna peragravit, plurimosque e popularibus suis ab errore ad veritatem, a flagitiis ad virtutem traduxit. Audiebatur ingenti plebis pariter et nobilitatis concursu, eminebatque in dicentis vultu tantus intimae sensus pietatis, humilitate ac modestia suavissime conditus ut audientes accenderet, ac sibi Christoque conciliaret. Nec viva dumtaxat voce rem Christi curabat ac tuebatur, sed scriptis etiam libris patria lingua, qua pollebat maxime, in lucem editis, quibus idolorum cultores, impiosque sectarum errores profligaret eo successu, ut non paucos principes et ingentem hominum multitudinem ad Christi religionem adduceret. Sacerdotio jam erat initiandus ab episcopo Japoniae Petro Martinez Societatis Jesu, sed exorta per-

Eadem lex lata contra quoscunque ex philippinis insulis venissent religionis christianae causa provehendae.

Sanctus Paulus Michi.

3

№11

## 日本の殉教者であるイエズス会士パウロ三木・ヨハネ五島・ヤコブ喜斎の列聖

カトリック教会関係機関ヵ
1862年頃/伊・ローマ刊
ラテン語/簡易紙装丁
縦32.0cm×横21.7cm

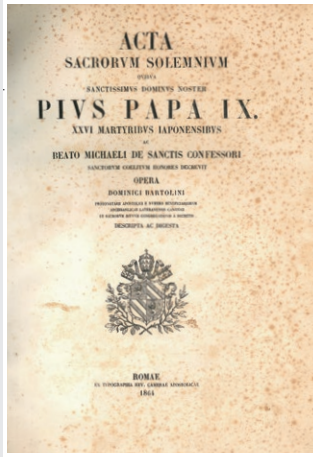
二十六聖人は1627年に列福され、その後2世紀半を経て1862年に列聖された。本紙は列聖に伴って出版されたパンフレット的な小冊子で、イエズス会士のパウロ三木、ヨハネ五島、ヤコブ喜斎に関する伝記、殉教時の様子がまとめられているもの。パウロ三木について、安土（滋賀県）のセミナリオで学んだことは記されているものの、本冊子では天草コレジヨにいたことは言及されていない。

№12

## 教皇ピウス9世によって厳粛に取りなされる日本の26人の殉教者

ドミニコ＝バルトリーニ
1864年頃/伊・ローマ刊
ラテン語/厚紙装丁
縦33.9cm×奥行26.4cm

日本二十六聖人が列聖されるにあたって、1627年の列福までの経緯、1862年の列聖までの経緯、カトリック教会内部でやりとりされた書簡などが緻密にまとめられ、内部資料的な意義を有する公式報告書である。P65などに二十六聖人個々の美徳などの情報が列伝的に語られている。



ACTA

SACRORVM SOLEMNIVM

SANCTISSIMVS DOMINVS NOSTER

PIVS PAPA IX.

XXVI MARTYRIBVS IAPONENSIBVS

BEATO MICHAELI DE SANCTIS CONFESSORI

OPERA

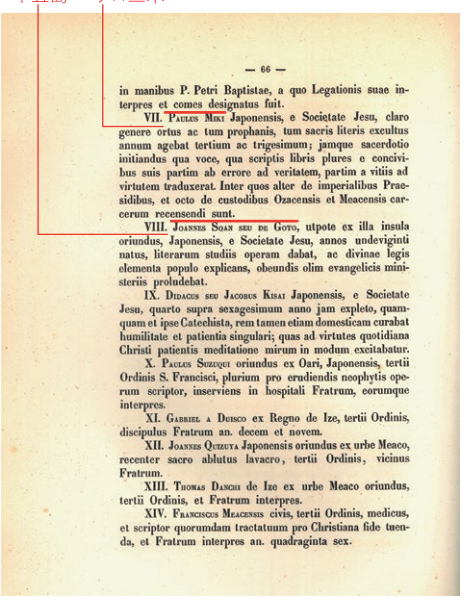
DOMINICI BARTOLINI

ROMAE

1864

中表紙

ヨハネ五島　パウロ三木



— 66 —

in manibus P. Petri Baptistae, a quo Legationis suae interpres et comes designatus fuit.

VII. Paulus Miki Japonensis, e Societate Jesu, claro genere ortus ac tum prophanis, tum sacris literis excultus annum agebat tertium ac trigesimum; jamque sacerdotio initiandus qua voce, qua scriptis libris plures e concivibus suis partim ab errore ad veritatem, partim a vitiis ad virtutem traduxerat. Inter quos alter de imperialibus Praesidibus, et octo de custodibus Ozacensis et Meacensis carcerum recensendi sunt.

VIII. Joannes Soan seu de Goto, utpote ex illa insula oriundus, Japonensis, e Societate Jesu, annos undeviginti natus, literarum studiis operam dabat, ac divinae legis elementa populo explicans, obeundis olim evangelicis ministeriis preludebat.

IX. Didacus seu Jacobus Kisai Japonensis, e Societate Jesu, quarto supra sexagesimum anno jam expleto, quamquam et ipse Catechista, rem tamen etiam domesticam curabat humilitate et patientia singulari; quas ad virtutes quotidiana Christi patientia meditatione mirum in modum excitabatur.

X. Paulus Suzoqui oriundus ex Oari, Japonensis, tertii Ordinis S. Francisci, plurium pro eruediendis neophytis operum scriptor, inserviens in hospitali Fratrum, eorumque interpres.

XI. Gabriel a Duisco ex Regno de Ize, tertii Ordinis, discipulus Fratrum an. decem et novem.

XII. Joannes Quizuya Japonensis oriundus ex urbe Meaco, recenter sacro ablutus lavacro, tertii Ordinis, vicinus Fratrum.

XIII. Thomas Danchi de Ize ex urbe Meaco oriundus, tertii Ordinis, et Fratrum interpres.

XIV. Franciscus Meacensis civis, tertii Ordinis, medicus, et scriptor quorumdam tractatuum pro Christiana fide tuenda, et Fratrum interpres an. quadraginta sex.

VIDA,

MARTYRIO,

Y BEATIFICACION

DEL INVICTO PROTO-MARTYR

DE EL JAPON

SAN FELIPE

DE JESUS,

PATRON DE MEXICO, SU PATRIA,

IMPERIAL CORTE DE NUEVA ESPAÑA,

en el Nuevo Mundo:

QUE ESCRIVIO

FRAY BALTHASAR DE MEDINA, SU COMPATRIOTA,

SEGUNDA IMPRESSION.

A EXPENSAS DE LA DEVOTA, NOBLE,

y generosa Plateria de Mexico, à quien se dedica.

CON LICENCIA: En Madrid, en la Imprenta de los Herederos de la Viuda de Juan Garcia Infanzon. Año de 1751.

中表紙

№13

## 新世界の帝国ヌエバ・エスパーニャと呼ばれる祖国メキシコの守護聖人　日本で最初に殉教した高名なる聖フェリペ・デ・ヘススの生涯と列福

バルタザール＝デ＝メディーナ
1751年/西・マドリッド刊
スペイン語/ヴェラム装丁
縦20.9cm×奥行14.9cm

フェリペ＝デ＝ヘススは、長崎で殉教した二十六聖人のひとりで唯一のメキシコ人。このためヘススはメキシコ人にとっての守護聖人として、同国で広く崇拝されてきた。本伝記はヘススの単独伝記として1683年にメキシコで初版刊行、のちにマドリッドで刊行された第2版が本書である。挿図としてヘスス殉教を描く銅版画も見られる。殉教図キャプションの名前に冠される「B.」は「Beatus（ベアトス）」の略で、福者の意味を示す。刊行時の段階で、二十六聖人は列福されていたため、Bの略号が見られるものである。

3 X. IANVARII.

*Nangasachi in Iaponia sub Taicosama.*

SEx fratres ex familia S. Francisci, PETRVS BAPTISTA, MARTINVS, FRANCISCVS, PHILIPPVS, CONSALVVS, FRANCISCVS; & tres Societatis IESV, PAVLVS, IACOBVS, IOANNES; quòd in insula Iaponia Euangelium disseminarent; & septemdecim laici, quòd Christiani essent facti, ALOYSIVS puer an. 12. PAVLVS, LEO, COSMVS, PAVLVS, MICHAEL cum THOMA filio an. 15. ANTONIVS an. 13. IOACHIMVS, FRANCISCVS, GABRIEL, THOMAS, IOANNES, MATTHIAS, VENTVRA, PETRVS, & FRANCISCVS, iussu Taicosamæ Iaponensium Tyranni, sinistræ auris particulâ truncata priùs, singuli singulis crucibus affixi, mucrone dextero latere transfuerberati, martyrij palmam sunt consecuti in vrbe Nangasachi. *Extat histor.*

Non apparet vacua in vobis, fratres, CRVX CHRISTI. Omnino refloruit & nunc quasi de nouo lignum, in quo pependit Dominus gloriæ; qui mortuus est non tantùm pro Gente, sed & vt filios Dei, qui erant dispersi, congregaret in vnum. *S. Bernard. Ep. 109.*

3 *Cedite nunc Fotoqua, Christi vicere tropæa. Germinat è nostro sanguine dia fides.*

№14

## 磔刑のキリストの勝利

バルトロメオ＝リッチ

1608年/ベルギー・アントワープ刊

ラテン語/牛革装丁

縦18.7cm×奥行13.0cm

イタリアのイエズス会士リッチによる著作で、信仰のために磔に処された著名な信者たちを70枚の銅版画で紹介した一冊。日本での磔刑についても3例が紹介されており、1589年豊後での高田教会ジョランの殉教、1597年長崎の二十六聖人殉教、1603年八代でのマグダレナら女性3名の殉教それぞれが、個別の版画で描かれている。

展示している二十六聖人の磔刑の様子を見ると26の十字架を数えることができ、№9、10などの会士を区別する表現と異なる。イエズス会が関与した作品としては希少である。

なお、本書はベルギー・アントワープで出版されており、現在、世界文化遺産でもあるプランタン社による印刷物という点でも注目される。

№15, 16

## 日本二十六聖人列聖記念メダル

B＝ザッカーニ

1862年/伊・ローマ製

№15＝シルバー製

№16＝ブロンズ製

いずれも径5.1cm

1862年のピウス9世による二十六聖人列聖を記念して製作されたメダル。同じデザインで銀製と銅製の2種類がある。

表面にはカトリック教会を象徴する女性の胸にはキリストのモノグラム「XP」があしらわれ、右手には殉教者の勝利を示すシュロの枝、左手には教皇の王冠と天国への鍵が表現される。

裏面には「全世界のカトリック教会の父、教皇ピウス9世により1862年6月8日に彼らが列聖された」という趣旨文と製作者ザッカーニの名が施される。

№15 シルバー製

表面

裏面

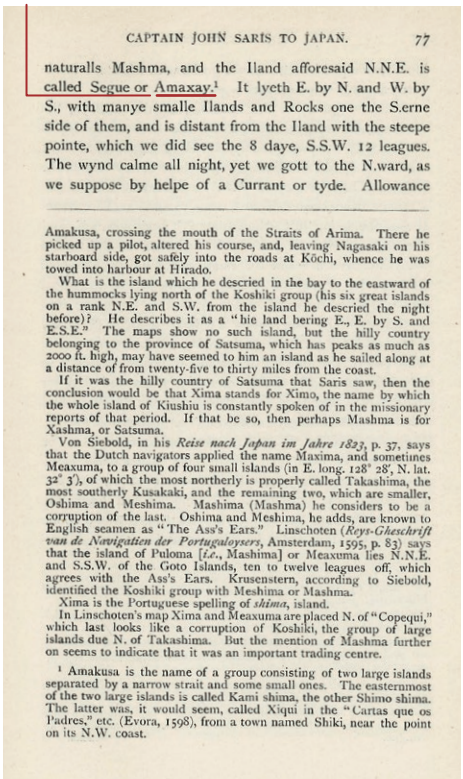
№16 ブロンズ製

表面

裏面

口絵の徳川家康肖像

Amaxay（アマクセィ）



CAPTAIN JOHN SARIS TO JAPAN. 77

naturalls Mashma, and the Iland afforesaid N.N.E. is called Segue or Amaxay.[1] It lyeth E. by N. and W. by S., with manye smalle Ilands and Rocks one the S.erne side of them, and is distant from the Iland with the steepe pointe, which we did see the 8 daye, S.S.W. 12 leagues. The wynd calme all night, yet we gott to the N.ward, as we suppose by helpe of a Currant or tyde. Allowance

Amakusa, crossing the mouth of the Straits of Arima. There he picked up a pilot, altered his course, and, leaving Nagasaki on his starboard side, got safely into the roads at Kōchi, whence he was towed into harbour at Hirado.

What is the island which he descried in the bay to the eastward of the hummocks lying north of the Koshiki group (his six great islands on a rank N.E. and S.W. from the island he descried the night before)? He describes it as a "hie land bering E., E. by S. and E.S.E." The maps show no such island, but the hilly country belonging to the province of Satsuma, which has peaks as much as 2000 ft. high, may have seemed to him an island as he sailed along at a distance of from twenty-five to thirty miles from the coast.

If it was the hilly country of Satsuma that Saris saw, then the conclusion would be that Xima stands for Ximo, the name by which the whole island of Kiushiu is constantly spoken of in the missionary reports of that period. If that be so, then perhaps Mashma is for Xashma, or Satsuma.

Von Siebold, in his *Reise nach Japan im Jahre 1823*, p. 37, says that the Dutch navigators applied the name Maxima, and sometimes Meaxuma, to a group of four small islands (in E. long. 128° 28′, N. lat. 32° 3′), of which the most northerly is properly called Takashima, the most southerly Kusakaki, and the remaining two, which are smaller, Oshima and Meshima. Mashima (Mashma) he considers to be a corruption of the last. Oshima and Meshima, he adds, are known to English seamen as "The Ass's Ears." Linschoten (*Reys-Gheschrift van de Navigatien der Portugaloysers*, Amsterdam, 1595, p. 83) says that the island of Puloma [*i.e.*, Mashima] or Meaxuma lies N.N.E. and S.S.W. of the Goto Islands, ten to twelve leagues off, which agrees with the Ass's Ears. Krusenstern, according to Siebold, identified the Koshiki group with Meshima or Mashma.

Xima is the Portuguese spelling of *shima*, island.

In Linschoten's map Xima and Meaxuma are placed N. of "Copequi," which last looks like a corruption of Koshiki, the group of large islands due N. of Takashima. But the mention of Mashma further on seems to indicate that it was an important trading centre.

[1] Amakusa is the name of a group consisting of two large islands separated by a narrow strait and some small ones. The easternmost of the two large islands is called Kami shima, the other Shimo shima. The latter was, it would seem, called Xiqui in the "Cartas que os Padres," etc. (Evora, 1598), from a town named Shiki, near the point on its N.W. coast.

№17

## ジョン・セーリス船長の1613年日本への航海

J＝セーリス著/アーネスト＝M＝サトゥ編

1900年/英・ロンドン刊

英語/布装丁

縦22.9cm×奥行15.3cm

ジョン＝セーリスはイギリスの貿易船「クローブ」号の船長で、1613年に平戸へ到着。すでに日本で重用されていた三浦按針（みうらあんじん）らと共に、徳川家康・秀忠に謁見し、朱印船（しゅいんせん）貿易（ぼうえき）の許可を受けた。セーリス自筆の航海日記は、国重要文化財として東洋文庫が所蔵している。本書は、セーリスの日記をイギリスの日本研究家アーネスト＝サトゥが編集したものである。

セーリスは平戸入港前に、天草沖（Amaxay）で漁船4艘と遭遇（そうぐう）、水先案内を受けたことが本書の記録から理解される。

№18

## 日本の将軍

ニコラス＝ラルメッサン

17世紀後半/仏・パリ刊

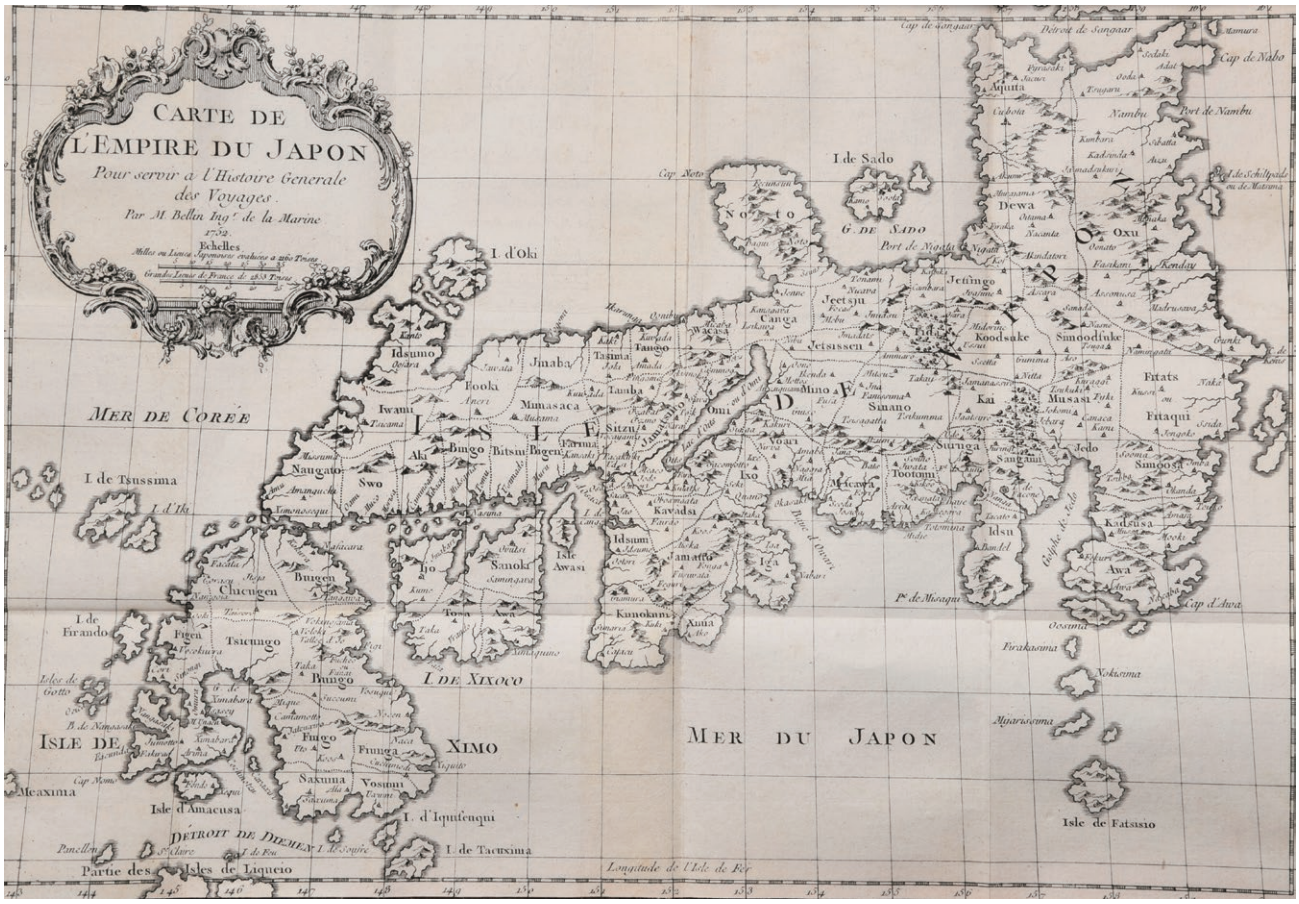
フランス語

縦29.5cm×横20.0cm

製作者フランス人ニコラス＝ラルメッサンは、ルイ14世の肖像版画を手掛けた人物である。彼が日本の「将軍」を想像で描いた銅版画が本作品である。

私達が考える日本人像とは大きくかけ離れ、ターバンを装着したアラブ風の人物で描いている。17世紀の西洋における日本人観を示す格好の資料。

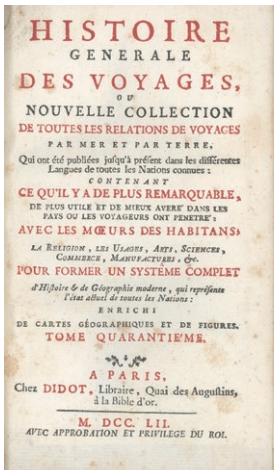
下部テキストで日本の概要を記すが、「MEACO（都）」「AMAGUNCE（山口）」を主要な都市としているように、その情報は16世紀後半のやや古い宣教師情報を参照して製作されている。




⇓

天草周辺部の拡大

背表紙


HISTOIRE
GENERALE
DES VOYAGES,
OU
NOUVELLE COLLECTION
DE TOUTES LES RELATIONS DE VOYAGES
PAR MER ET PAR TERRE,
Qui ont été publiées jusqu'à présent dans les différentes Langues de toutes les Nations connues :
CONTENANT
CE QU'IL Y A DE PLUS REMARQUABLE,
DE PLUS UTILE ET DE MIEUX AVERÉ DANS LES PAYS OÙ LES VOYAGEURS ONT PENÉTRÉ :
AVEC LES MŒURS DES HABITANS,
LA RELIGION, LES USAGES, ARTS, SCIENCES, COMMERCE, MANUFACTURES, &c.
POUR FORMER UN SYSTÈME COMPLET
d'Histoire & de Géographie moderne, qui représente l'état actuel de toutes les Nations :
ENRICHI
DE CARTES GÉOGRAPHIQUES ET DE FIGURES.
TOME QUARANTIEME.
A PARIS,
Chez DIDOT, Libraire, Quai des Augustins, à la Bible d'or.
M. DCC. LII.
AVEC APPROBATION ET PRIVILEGE DU ROI.

中表紙

№19

## 日本帝国の地図

ベリン
（プレヴォ『航海記集成』所収）
1752年/仏・パリ刊
フランス語/厚紙装丁
書：縦17.3cm×奥行11.3cm
地図：縦22.9cm×横32.0cm

フランスの地理学者・哲学者であるベリンが1752年に製作した日本地図で、プレヴォによる『航海記集成』に閉じ込まれているもの。

1615年以降の海禁以後、日本情報が限定されつつも、小国名とその範囲が点線で示されるほどに更新がなされたことがうかがえる。

天草は単一の島として描かれ、北岸に「Fondo（本渡）」、東岸に「Xequi（志岐）」が都市名として明記される。都市本渡が認識されている西洋製日本図として重要な一枚である。

1.　高7.3cm・口径4.2cm・底径3.4cm
2.　高6.6cm・口径3.6cm・底径3.5cm
3.　高8.7cm・口径5.4cm・底長3.4cm
4.　高8.5cm・口径4.2cm・底径4.7cm
5.　高8.8cm・口径5.2cm・底径5.0cm
6～9.　高7.0cm・口径8.0cm・底長4.2cm

№20

## ギヤマングラス

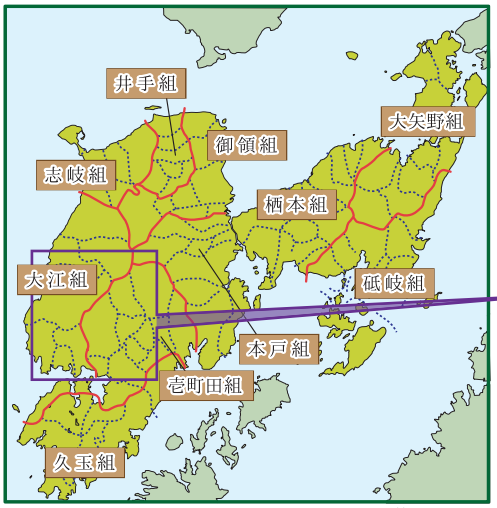
製作者不明

19世紀頃/生産地不明

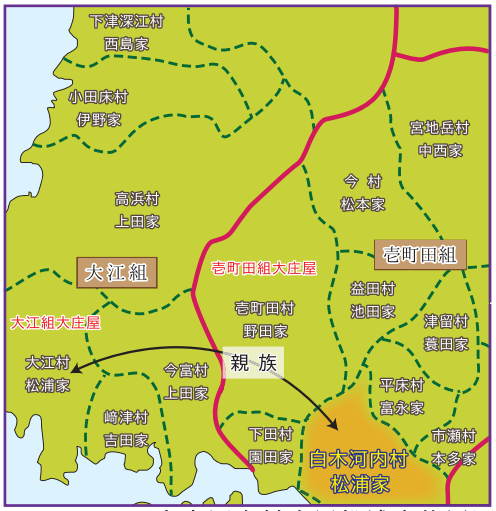
計 9 点

江戸時代に白木河内（しらきがわち）村（現天草市河浦町白木河内）の庄屋であった松浦家（大江組大庄屋の松浦家と親族）に残されていたギヤマンのグラス9点である。由来・伝来の状況などについての詳細は不明。

脚台（きゃくだい）が花様（はなよう）のもの（1,2）、同じく脚台が方形のもの(3)、グラス部が八角形で支脚が球状になるもの(6~9)等のバリエーションがある。ガラス内部に気泡（きほう）の混入が見られるものが多く、やや透明性を欠く品もあり、19世紀頃に生産されたタイプと推定されるが、国産・海外産の別などは明らかではない。




近世天草の村界




白木河内村庄屋松浦家位置図
※鶴田文史他2007を基に作図


参 考 文 献

青羽古書店ホームページ取り扱い書誌解説　http://www.aobane.com/
天草市立天草コレジヨ館2021『令和3年度天草市立天草コレジヨ館企画展 Amacusaと九州西岸のNAMBAN』
踊共二2004「白い肌のアジア人 －レンヴァルト・ツィザートの『日本誌』(1586年)を読む－」『武蔵大学人文学会雑誌』35巻4号
片岡弥吉1979『日本キリシタン殉教史』時事通信社
神田宏大2016「河内キリシタンの繁栄とその広がり」『戦国河内キリシタンの世界』批評社
木下杢太郎1929『えすぱにや・ぽるつがる記及び初期日本吉支丹宗門にかかる雑稾』岩波書店
木村三郎1996「<聖フランシスコ・ザビエル像>の図像展開と17世紀初頭におけるその作品目録」『日本大学芸術学部紀要』第26号
久米邦武1878『特命全権大使米欧回覧実記 第4篇 欧羅巴大洲ノ部 中』博聞社
久米邦武著/水澤周訳注2005『現代語訳 特命全権大使 米欧回覧実記　第4巻 ヨーロッパ大陸編 中』慶応義塾大学出版会
神戸市立博物館編2014『特別展「ギヤマン展-あこがれの輸入ガラスと日本」』図録　神戸新聞社
ジョン＝セーリス著/村上堅固1944『日本渡航記』十一組出版部
大日本人名辞書刊行会1926『新版大日本人名辞書 下巻』
鶴田文史他2007『図説 天草の歴史』郷土出版社
鶴田八洲成編1972『旧白木河内村庄屋役 松浦家古文書目録・史料抄』河浦史談会
天理図書館編1973『きりしたん版の研究』天理大学出版部
東洋文庫監2014『東洋文庫善本叢書2　重要文化財　ドチリーナ・キリシタン 天草版』勉誠出版
豊島正之2014「ドチリーナ・キリシタン解説」『東洋文庫善本叢書2　重要文化財　ドチリーナ・キリシタン 天草版』勉誠出版
レオン＝パジェス著/吉田小五郎訳1937『日本切支丹宗門史』上 岩波書店
レオン＝パジェス著/吉田小五郎訳1937『日本切支丹宗門史』中 岩波書店
レオン＝パジェス著/吉田小五郎訳1939『日本切支丹宗門史』下 岩波書店



長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 世界文化遺産登録5周年記念

令和5年度天草コレジヨ館企画展　新収蔵品展

展示会期:令和5年(2023)4月28日~8月30日
展示会場:天草コレジヨ館

編集・発行　天草コレジヨ館　熊本県天草市河浦町白木河内175-13
印　刷　アートプロ
発行日　令和5年(2023)4月28日